

ティーチングポートフォリオ



佐賀大学医学部看護学科 成人・老年看護学講座

末次 典恵

sue43@cc.saga-u.ac.jp

作成日：2011年3月3日

第4回佐賀大学ティーチング・ポートフォリオワークショップ

2011年3月1日(火)～3日(木)

目次

1. 教育の責任	1
2. 教育の理念	3
3. 教育方法	4
4. 成果と評価	6
5. 改善	7
6. 今後の目標（短期目標・長期目標）	8
7. 添付資料	8
①科目シラバス	
②看護技術動画教材	
③事前学習課題	
④授業科目 点検・評価報告書	
⑤第7回 日本 e-Learning 大賞関連 HP URL: http://www.elw.jp/award.html	

1. 教育の責任

私は、看護学科で成人・老年看護学講座に所属し、学士課程で急性期看護を担当している。急性期看護領域で担う内容は、健康状態の急激な変化（突発的な事故や重篤な疾病の発症、病気の活動期）などによって生命の危機的状況にある患者や手術を受ける患者の健康問題、およびその家族への支援である。また、講座の一員として、講座が担当している慢性期看護、老年看護領域の授業科目における演習指導と臨地実習指導に携わっている。看護学科では、専門的な知識や技術の学習が不可欠である。私の役割は、基礎看護教育においてまだ十分な臨床経験を持たない学生達に看護の対象者や医療現場をイメージできるよう、知識を教授していくことと同時に、将来の医療人としての態度を育むことである。

授業外では、看護学科への進学を考えている高校生へ看護の魅力を伝えていく出前授業（ジョイントセミナー）や、他大学の教員に向けて看護技術に関する電子教材作成の具体的方法についての講義（FD）を行い、看護教育の充実に関連した教育活動を行っている。

以下に 2010 年度に担当した主な科目を列举する。

1) 学部教育

科目名	対象	概要	授業形式
クリティカルケア	必修 3年次・前期、 60名	健康状態の急激な変化(突発的な事故や重篤な疾病の発症、病気の活動期)などによって、生命の維持が困難な危機的状況にある対象とその家族の反応を理解し、専門的・集中的な看護援助について修得する	講義 (分担:5コマ)
急性期・回復期の成人看護	必修、 2年次・後期、 60名	急性期・回復期にある成人患者の特性と主な健康問題の特徴をふまえ、健康問題をもつ患者および家族への援助の方法論を理解する	講義・演習 (分担:9コマ)
がん看護	必修、 2年次・後期、 60名	がん患者の特性と主な健康問題の特徴をふまえ、生活の変化と療養生活のバランスを保ちながら最適な健康状態を得ることができる援助の方法論を理解する	講義 (分担:1コマ)
看護診断実践論(2010年度開講)	必修、 2年次・前期、 60名	看護過程の中核となる看護診断について、その概論および、背景にある理論を理解し、看護を科学的に実践するための思考過程について学修する	講義・演習 (分担:6コマ)

成人看護実習	必修、 3年次・後期、 24名(6名×4 クール)	健康問題をもつ成人期の患者を受け持ち、その疾病・治療過程を踏まえながら患者の全人的理解に努め、既修の知識・技術・態度の統合により、患者の健康レベル(急性期・回復期、慢性期・終末期)に応じた看護過程を展開し、成人期にある患者のQOL向上を目指した看護実践能力を修得する。さらに、看護実践を通して、成人期にある患者・家族に対する看護専門職の役割と看護課題について学ぶ	臨地実習(20週：3W×2クール、4W×2クール)
総合的な実習 (クリティカルケア領域)	必修、4年次・ 後期、3名	4年間の学習の統合を図り、事故の看護観を深め、看護専門職者としてのアイデンティティの基礎を形成する。学生自らが希望する領域を選択し、学習計画を立案して実習に臨む。	臨地実習 (3週間)

2) 演習担当科目：詳細はシラバス(添付資料1)で示す。

科目名	種別・対象・期間・受講者数	分担コマ数
発達看護論演習 I	必修、3年次・前期、60名	10
看護診断実践論	必修、3年次・前期、60名	4
フィジカルアセスメント I	必修、3年次・前期、60名	14
フィジカルアセスメント II	選択、4年次・前期、50名	6
看護研究入門	必修、4年次・前期、68名	7

3) 学生指導

内容	対象・期間	概要
チューター	3年次 10名 (2010.4~2011.3)	年間を通して、修学状況や生活状況に関する指導や助言を行っている。就職活動時のイメージ作りに役立つよう、2回の就職支援セミナーの企画・運営(夏季・冬季)を行った

3) 社会貢献

内容	対象・期間	概要
ジョイント セミナー	福岡県立三池高等学校、2年生、30名、 2010.11.6	進路の決定に参考となるよう、「救命処置と看護」というテーマで、一般を対象とした一次救命処置の実施方法に関する講義を行った。併せて佐賀大学の学びの特徴や卒業

		後の進路などについての紹介を行った。
他大学での講義(FD)	日本赤十字広島看護大学、教職員、30名、 2011.2.14	「看護教材ビデオの撮影・編集のコツ(応用編)」というテーマで、e-Learning 教材で使用する看護映像作成について、企画、撮影、編集などに関する技術的な手順やコツに関する講義を行った。

2. 教育の理念

学生には大学時代の4年間で医療人としての確かな技術と心構えを培ってほしい。私は、医療に携わるものに‘このような人間であってほしい’という**3つの願い**がある。それは、**生命を大切に**する人間であること、**尊厳をもって相手にかかわる**人間であること、そして、**相手や自分に誠実である**こと、である。私は、教員になる前に看護師として医療施設に11年間勤務した。配属は、手術を受ける患者が入院する外科病棟と重症患者の治療に当たる集中治療室という急性期看護領域で、臨床現場で数多くの患者と関わり、その回復過程に関わってきた。同時に、たくさんの死にも立ち会った。また、様々な医療者や患者の家族とも関わった。これらの経験は、私にいのちにかかわる職業に就くものの資質を体得させてくれ、3つの願いとして今日の私の教育理念の基本となっている。

佐賀大学看護学科の教育目標は、**<看護職者にふさわしい豊かな感性を備え、ひとを尊重する態度を身につける>**、**<的確な看護実践ができるように看護の知識と技術を習得する>**、**<看護の多様な問題に対処できるように、自ら考え解決する習慣を身につける。>**、**<社会に対する幅広い視野をもち、地域における保健医療福祉の活動に貢献できる基本的能力を養う>**である。本学科の学生のほとんどは、卒業後、看護師として医療施設に勤務する。そのため、私が、学生が大学4年間で確実に身につけるべきこととして重要視していることは、**<看護の知識と技術の習得>**と**<自ら考え解決する習慣>**である。医療に関わる専門職として、正しい知識と技術とを兼ね備えることはもちろんのこと、大学を卒業した後、自分自身で社会のニーズと勉強すべきことを的確に捉え、効果的な学習方法を自分で身につけ実践できる者が、社会における責任を果たしていける。私はこれら2点の育成を大切にして、4年間で確かな技術と心の基盤を持つ学生を育てたい。

<看護の知識と技術>

卒業後、医療施設に就職する学生には、学部教育で看護職に求められる専門知識と正しい技術の基本を習得させる必要がある。看護師は患者の日常生活を援助する

技術や診療の補助技術を中心とした看護技術の行為を通して患者と関わっていく。医療現場での患者に対する看護行為は、一歩間違えば、相手を障害する行為ともなり得る。看護師を含めた医療者を信頼し、身体を任せてくれる患者への行為に、「いいかげん」という意味の「適当」は許されない。正しい知識と確実な技術のもとに実施する看護技術の提供が患者の命を守ることにつながる。人間の生死にかかわる職業に携わるものには、正しい知識を獲得し、安全な技術の基盤を習得させる必要がある。

＜自ら考え解決する習慣＞

看護師は専門職者として、患者の問題をとらえ、その問題の解決に向けて働きかけることが求められる。患者を観察し、変化を読み取り、どうすべきかの判断力を備えていく必要がある。正しい判断ができるようになるためには、ある程度の経験によるところも大きい。しかし、判断ができるようになるための思考力の基盤をつくっておくためには、学生時代から、情報を鵜呑みにせず、その情報の信憑性を問うクリティカルな思考と、‘自ら’考え解決する習慣を身につけておく必要がある。

3. 教育方法

1) 視覚的情報を提示する 【看護の知識と技術の習得】

講義スライドは、できるだけ多くの画像(動画を含む)を用いて作成している。視覚的情報を提示することで、学生がイメージしやすく、かつ、学生の理解レベルの違いによる認識の差を少なくするためである。2010 年度「急性期・回復期の成人看護」の看護技術演習では、手本を示す動画教材を自主作成し、学生が各自で正しい手技を確認できるよう、実習室での演習中に映像を上映しながらの授業を試みた。(添付資料2)



図1. 動画教材の一場面

2) 体験により具体的なイメージをつける 【看護の知識と技術の習得】

看護師や教員として実際の臨床での自分の経験談と授業の内容とを結び付けて発言をするようにしている。具体例を示すために、できるだけ自分が経験した臨床でのエ

ピソードを患者の個人情報を守りながら語るようにしている。また、学内では経験することが難しい患者の身体の異常の観察のために、生体シミュレーターや物品等を活用し、できるだけその事象に近い経験をさせるようにしている。具体的には、肺の手術後に起こりやすい「皮下気腫」の触感をつかませるため、入手が容易で触感の似ているフラワーアレンジメントに使用されている市販の素材を準備し、学生達に触れさせ、イメージをつけた。

3) 全員参加形の授業を意識する【自ら考え解決する習慣を身につける】

授業中は、ただ、受け身で講義を受けるのではなく、学生に、「自分の意見を述べる」、「自分も共に授業をつくっている」という意識を持たせるために、できるだけ多くの学生に発言させる「全員参加型」ですすめていくようにしている。実際には、簡単な発問をして、講義中に学生と対話をするようにしている。発言する学生の選出は、回答した学生同士で学籍番号をランダムに指名させている。

4) Web学習システムを活用する【自ら考え解決する習慣を身につける】

私が担当する科目は、専門基礎科目の知識をふまえた上で進めていく内容がほとんどである。しかし、講義時間中に既習の学習内容を振り返る時間的余裕はない。授業の理解をスムーズにするために既に学習している内容(例えば臓器の解剖整理など)の事前学習課題を Web 学習システム上で配信し、講義の予習に用いた。(添付資料3)



図2.肺機能障害をもつ患者の看護ワークブック

5) タイミングを逃さずに学ばせる【看護の知識と技術の習得】

講義内容では、標準的事項を確実に押さえるとともに、看護や医療に関する最新情報を取り入れるようにしている。また、看護師国家試験を意識して、過去に出題された

問題を、関連する講義の随所に組み込むようにしている。

4. 成果と評価

2010年度に担当した授業評価報告については別紙にて全容を示す(添付資料4)以下に、主に自分が担当した科目の学生評価を示す。

	総合的満足度	授業科目の重要性の程度	授業の内容への興味程度	授業の編成や内容における一貫性、統合性の程度	講義の工夫、資料等の活用・有効性の程度	配分時間の妥当性
クリティカルケア	4.3	4.8	4.4	4.3	4.3	4.2
急性期・回復期の成人看護	4.5	4.7	4.4	4.3	4.3	4.2
がん看護	4.3	4.3	4.3	4.1	4.1	4.1
看護診断実践論	4.3	4.7	4.4	4.3	4.2	4.2
成人看護実習	4.5	5	4.6	4.5	4.3	4.4

評価 (1低い, 2. やや低い, 3. 中間, 4. やや高い, 5. 高い)

担当した科目は、全体的に高い評価を得ている。これらの授業科目は看護師国家試験に関連する専門必修科目であり、重要性が高い。だからこそ、学生には国家試験を意識させつつ、基盤となる理論と最新の知見とを兼ね備えて、充実した授業を行う必要がある。

次に私が全体半数のコマを担当した「急性期・回復期の成人看護」の授業評価について昨年度と比較した。受講対象者が違うために正確な比較とはいえないが、講義担当者で昨年と違う教員が本年度に着任した私のみであること、対象学年、開講時期が同じ条件であるため学生の学習のレディネスに差がないという前提で比較を行った。

急性期・回復期の成人看護	総合的満足度	授業科目の重要性の程度	授業の内容への興味程度	授業の編成や内容における一貫性、統合性の程度	講義の工夫、資料等の活用・有効性の程度	配分時間の妥当性
平成22年度(2010年)	4.5	4.7	4.4	4.3	4.3	4.2
平成21年度(2009年)	4.0	4.7	4.2	4.0	4.0	3.8

評価 (1低い, 2. やや低い, 3. 中間, 4. やや高い, 5. 高い)

授業科目の重要性の程度以外の全ての項目で学生評価の点数が昨年度を上回っている。また、少数ではあるが、「一方的な講義でわかりにくい」、「スライド・OHP などが

わかりにくい」という評価が昨年度より減少していた。これらのことから、3. 教育方法で前述した今年度の授業への取り組みが学生に評価されたものと考えられる。

5. 改善

1) 講義終了時には必ず、講義の感想を書いてもらい、回収したミニッツペーパーは、その日のうちに目を通し、質問事項や意見など、全体で共有したほうがよい内容については、できるだけ次の自分の講義の時間に学生にフィードバックをするようにしている。この方法は「自分の意見を取り入れてもらえた」と学生に好評である。

2) 教育改善のための活動

①研修会への参加

- 第18回医学・看護学教育ワークショップ「医学部における専門英語教育について」佐賀大学医学部主催平成22年8月20日(金)
- 看護診断フォローアップセミナー(看護ラボラトリー主催)「ゴードンの機能的健康パターンの理解」講師:上鶴重美氏 平成22年10月17日(日)
- 学研ナーシングセミナー「フィジカルアセスメントの基本とワザ」講師 名古屋大学 山内豊明氏平成23年1月30日(日)
- 九州看護理論研究会セミナー「看護診断と中範囲理論の関係」講師 日本赤十字看護大学 中木高夫氏 平成23年2月19日(土)

②専門領域における教育法の研究業績(学会発表)

- 医療現場と教育との連携におけるe-ラーニング教材コンテンツの活用と取り組み
日本看護学教育学会第20回学術集会 2010.7.31-8.1
- 「観察」に焦点を当てた基礎看護技術教育の評価
日本看護学教育学会第20回学術集会 2010.7.31-8.1
- 基礎看護学実習における看護学生のフィジカルアセスメント技術実施の現状
第36回日本看護研究学会学術集会 2010.8.21-22
- 大学作成基礎看護技術コンテンツ共有によるWBTに対する臨床看護師の評価と活用可能性の検討、第30回日本看護科学学会学術集会 2010.12.3-4

③受賞

- 第7回 日本 e-Learning 大賞 厚生労働大臣賞 2010.7.28

多病院・大学のアライアンスで看護分野の e ラーニングを普及・発展

ー福岡看護 e ラーニング研究会の活動ー

社会が求める活動の必要性、ボランティアワークの継続性、eラーニングのレベルの高さが評価された。(添付資料5)

6. 今後の目標

1) 短期的な目標

現在担当している科目では Web 学習システムを参考資料の提示、レポート課題提示と授受に利用している。このシステムをさらに効果的に活用することで学生の自主学習支援を行いたい。具体的には、看護技術に関する映像教材を作成し、呈示していくことを計画している。自分の時間にあわせた学習ツールを準備することで、学生の自主的な学習への意欲を高めたい。また、Web コミュニケーションツールを活用し、意見交換を活発にしたい。学生が自分の意見をまとめ、それを言葉や文章にして相手に伝えることで文書によるコミュニケーション能力の育成につなげたい。

2) 長期的な目標

Web 学習教材は評価をもとに改良を重ねていき、在学中のみならず、卒後教育にも役立てられるようなコンテンツにして、活用されるようにしていきたい。そうすることで医療現場と教育現場をつなぎ、現在、看護基礎教育での課題である臨床現場と教育との乖離の縮小につなげたい。

さらに Web 学習教材に関する学習成果を明らかにし、教材評価を蓄積して、それらの結果を国内および国外に向けて発信したい。

7. 添付資料

- ① 分担担当科目シラバス
- ② 看護技術動画教材
- ③ 事前学習課題
- ④ 授業科目 点検・評価報告書
- ⑤ 第 7 回 日本 e-Learning 大賞関連 HP URL: <http://www.elw.jp/award.html>